

(^_^) 『明日からの学級が変わる！HOWTO学級作り・特別活動』 (^_^)

(^_^) 山口学級活動ネットワーク メールマガジン (^_^)

(^_^) 平成18年08月30日発行 第10号 (^_^)

∞メニュー∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

- 1 子どもが主体的に取り組む話し合い活動 その2
- 2 2学期の学級作りを考える～スタート時のポイント～
- 3 報告「山口学級活動ネットワーク 夏の学習会」
- 4 メルマガ情報交換広場
- 5 メルマガ編集部からのお知らせ

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

夏休みもあと数日。みなさん、しっかりリフレッシュできましたか？ 2学期はもう目の前です。この夏休みに仕入れたことをしっかりと反芻して、2学期に備えましょう！

8月26日、山口学級活動ネットワーク主催の夏の学習会を行いました。土曜日にもかかわらず40名の方が参加してくれました。今回は、その様子も少しお知らせしようと思います。

1 子どもが主体的に取り組む話し合い活動～その2 議題を集める～
山口市立平川小学校 梶田崇晴

議題が集まらないということは、子どもたちが学級会活動に関心や意欲をもたないからであると言われていています。子どもたちが自分たちの生活に対して問題意識をもつようになればいいのですが、そのためには教師が子どもたちのつぶやきをアンテナでキャッチすることと同時に、適切な指導が必要になってきます。そこで、「話し合い活動」のその2では「議題を集める」ことについてまとめてみます。

■議題をどこから集めるか

「議題」といえば「議題ポスト」。みなさんの学級に議題ポストはありますか？しかし、議題ポストを置いたからといって、議題がそうそう集まるものではありません。ポストに入っていないと、悲しくなってしまうですね。しかし、それは子どもたちに中に議題案がないというわけではありません。ポスト以外にも、様々なところに結構子供が切実に感じている問題が転がっているものなのです。これらを活用しない手はないと思いませんか。

- 学級日誌や個人の日記から
- 朝の会・帰りの会で問題になったことから
- 遊びの中（休み時間）のみんなの声（つぶやき）から
- 係活動や当番活動から
- 掃除や給食の子どもの訴えから
- 他のクラスの活動を見たり、児童会の活動の中から

○班長会の話合いから

このような場で拾い上げた問題も、当の子どもにも内容がはっきりしないものも多くあります。そういう場合には、それらの問題を取り上げ、何が問題なのか、どのようにしたらいいと思っているのかを教師との対話の中で明確にさせるということが大切です。

■教師はどんな手を打てばよいか

上記のようなところから議題を集めるといっても、教師は何もしないでもいい、ということではありません。それなりに手立てをうつ必要があります。その技をまとめてみます。

〈その1 低学年の子どもたちへの手だて〉

低学年の子どもたちはよくつぶやきます。教師にも訴えてきます。そのつぶやきから議題になりそうなものを拾いあげ、意識づけるようにします。「へえ～、そんなことがあるんだね。みんなで話し合ってみたらどうかな」というようにみんなに聞こえるように返すのです。

教師の方から1・2回議題を提示し、どのようなことが議題になるかを理解させたり、議題を2・3こ用意して、その中から1つ選ばせたりすることも大切です。

〈その2 子どもとの触れ合いの機会を増やす〉

- ☆放課後や給食の時間など、自由に語り合える時間をもちましょう。
- ☆教師への訴えや相談ごとを丁寧に聞き、解決法を一緒に考えましょう。
- ☆学級日誌などを丁寧に読み、朱書きによる対話を行いましょう。
- ☆班会議で、各班からの問題点を吸い上げましょう。

〈その3 議題の書き方を教える〉

せっかく問題意識をもっても、議題の立て方がわからないのでは、学級会に取り上げることもできません。そこで全員に一度は学級会の議題の立て方、書き方を指導しておきたいものです。そこで、学級の全員に議題案を書かせるようにします。その時、議題の種類にはどういうものがあるかを教えてあげる必要があるかもしれませんね。係や生活グループごとに書かせてもよいと思います。

〈その4 子供の問題意識を整理する〉

議題案を持ってきた子どもとよく話し、問題を整理させます。「やってほしいこと（要望）」か「やってみたいこと（願望）」か「こうなるといいこと（希望）」か、いっしょに考えてあげましょう。

また、その議題案における話合い活動をイメージさせます。話し合うことによって、学級の何がよくなるのかを想像させるのです。高学年だったら、「それをみんなでお話しすると、何がよくなるの？」と聞くのもいいでしょう。

〈その5 環境をつくる〉

- ①「議題ポスト」を設置する

ただ設置するより、ちょっとひと工夫してみましよう。例えば、ポストに愛称をつけるとよいですね。議題の種類から考えて、「こまったポスト」「やってみようポスト」「工夫ポスト」という名前ははどうでしょう。高学年ではいつ、誰が開くのかを明記しておくことが望ましいです。

② 掲示物で意識化を図る

始めの頃は「学級会活動の流れ」を掲示しておくとうよいと思います。学級の問題は、学級のみんなで解決するんだということを意識させるのです。

「議題処理コーナー」も必要です。出された議題がどのように処理されたのか、みんなに分かるようにしておくことが大切です。

③ その他

議題カードを色分け（赤は集会関係、青は係関係、黄は遊びや生活関係など）するというのも、1～3年生で有効です。

〈その6 教師から仕掛ける〉

力業です。学級に事件を起こすのです。これは話合いの必然性をつくるのに有効です。例えば、学級のボールの使い方が悪かった場合、「ボール遊び禁止のおふれ」などを教師が黒板に貼っておくのです。理科室を使った後の片付けができなかったので、「理科室使用禁止事件」というものを起こしたこともあります。

2 2学期の学級作りを考える～スタート時のポイント～

山口市立平川小学校 梶田崇晴

もうすぐ2学期が始まりますね。もう準備はできましたか。26日の学習会の折、2学期からの学級作りのスタート時のポイントについて個人的に質問を受けましたので、私個人が気をつけていることをまとめてみます。

◆ 1学期の学級作りを見直す

まず、1学期に書いた学級経営案を開いてみます。そして、教師が意図していた姿と1学期の学級活動の実際を比べてみます。うまくいかなかったこと、改善した方がよいと思うことを書き出します。

次に、その原因を考えます。年度初め、教師に「熱さ」があったから子どもも熱くなれたということが多々あります。教師としてトーンダウンしていないか確かめます。子どもが冷めたとすれば、教師が冷めたから、ということも考えられるからです。そのほか、子どもの見取りに間違いがなかったか、ということも考えられます。

1学期の学級作りを見直す視点として、次のことを考えています。

- ☆諸活動を通して、生活をより明るく楽しいものにしてきたか。
- ☆自分のめあてに向かって、一生懸命に努力する子どもを育てたか。
- ☆問題を分析し、正しく把握し、自分で考えた解決策を持っていたか。
- ☆よりよい学級にするために、自分はどうしたらいいのかを考える子どもはいたか。

- ☆話し合いにおいて、子どもたちが自分なりの考えや必要なことを発表したか。
- ☆生活上の諸問題を、手順を考えながら協力して解決することができていたか。

◆人間関係の問題についてのふりかえり

人間関係の問題はあって当たり前と考えます。必要なことは、人間関係の問題を子どもが互いの成長に役立てることができるような学級になっているかどうかです。

そこでは、人間関係の問題は見えにくい場合が多いということを自覚しているかどうか大切です。

その上に立って、教師自身の持つ「子ども理解」を有効に活用したかを振り返ります。担任が得た子どもの情報をただ蓄積していただいただけでは意味がありません。折に触れ、その情報を必要に応じて子どもに伝え、共有化し、日常的に活用することが大切です。

そのために、個を大切にしている姿を見せることだと考えています。失敗したり、困ったりしている子どもに対して、自ら親身になって励まし、力になっているかどうか、また、助け合っている子どもを賞賛していたか、逆に失敗を馬鹿にしたような子どもの言動を厳しく指導していたかを振り返ります。その姿を子供たちは見ているのです。これらが「自分が困ったとき、先生は助けてくれる。自分は大切にされている」という子どもの安心感につながるのです。

◆2学期の始まりを意識させる

2学期始まってすぐに私がよく取り組んでいたことは次のことです。

〈夏休み発表会をする〉

夏休みの生活についての発表会をします。ここでのポイントは、ただ思い出だけを発表するのではなく、自分ができるようになったこと（達成体験）、人のために役に立ったこと（貢献体験）、がんばったことなどをどんな小さなことでもいいので発表させるようにします。そして、それらをみんなで認め合うようにします。

〈2学期の学級のめあてを決める〉

学級目標に照らし合わせて、何ができるようになって、何ができていないかを学級全員で考えます。それをもとに2学期の重点目標を考えさせます。できていないことに対しては、その原因を考えさせ、できるようにするにはどうしたらよいかを話し合わせるとよいですね。

本会事務局の吉田先生（附属山口小）の場合、1学期の学級の振り返りを模造紙などを書いておいて、同じ用紙を新学期に用いて、それをもとに、2学期に重点目標を決められるそうです。そうすることによって、1学期末の姿がありありと浮かぶようになるということです。

〈2学期の学級活動オリエンテーションをする〉

2学期には、大きな行事として運動会や音楽会があります。そのほかにも学校によってはいろいろな取組みがあります。そこで、それらの行事にどのように取り組んでみたいかを話し合わせます。学級が目指す方向を、一人ひとりの子どもに具体

的に考えさせることがねらいです。

◆係活動の見直し

2学期の係活動はマイナーチェンジを行います。学期が変わるたびに、すべての係活動をフルモデルチェンジするという話を聞くことがありますが、その必要はないように思います。1学期の係活動で、「自分がやりたいと思う仕事できたか」「自分のした仕事が学級の友だちに正当に評価されたか」「活動に取り組む中で、満足感や成就感を得られたか」を視点でふり返らせ、どの程度達成できたかで、統合・発展・消滅・分離などを考えればいいと思います。

3 報告「山口学級活動ネットワーク 夏の学習会」

8月26日（土）に山口学級活動ネットワーク主催の学習会を行いました。ここでは「子どもが生き生きと輝く学級作りをめざして」をテーマに、内容盛りだくさんの学習会でした。

その内容を掻い摘んでお知らせします。

始めに、本研究会の顧問である山口県立大学の相原先生から「特別活動における個と集団」というテーマで基調講演を行っていただきました。教育の現場で、なぜ個と集団の両方を大事にしていかなければならないかを、事例をもとに話されました。また、教師に必要とされる資質についても話がありました。

次に、本会代表の相田が「特別活動で学級をつくる」というテーマで実践提案を行いました。「さわのび」を学級目標とする学級での取組みを報告し、それに基づいて「学級作り10の原則」を提案しました。

午後からは、日本体育大学教授の宮川八岐先生（前文部科学省初等中等教育局視学官）に記念講演をお願いしました。宮川先生には「『人間力』の育成と特別活動～今こそ、望ましい集団活動の確かな実践を～」をテーマに約1時間30分講演していただきました。本学習会発足記念ということで、宮川先生には超多忙な時間を調整していただいて山口まで来ていただきました。学習指導要領をもとに、なぜ特別活動が重視されなければならないのかを、豊富な事例をもとにお話しいただきました。

最後を締めくくったのは、本会の事務局である能勢と津村による「2学期から使える学級作りミニ実践」の紹介をしました。たくさんのおみやげを準備しての発表で、きっと参加された方に満足いただけたのではないかと考えています。

本学習会は、山口県に特別活動の実践を広げることを目的として発足した会です。このたびの学習会に参加していただいた方から、たくさんのおみやげメッセージをいただきました。次回から少しずつ紹介していきます。

また、このメルマガで紹介してもらいたいテーマもたくさんいただきました。原稿作成の際、可能な限り取り上げていきたいと思っています。

4 メルマガ情報交換広場

このメルマガを使って、学級作りについての情報交換をしませんか？ 今、募集中のテーマは、次の3つです。

◆盛り上がったイベント活動

こんなイベント活動があるよ、学級でこんなイベント活動をしたら盛り上がったよなどというイベント活動の情報、ありましたら紹介をお願いします。

◆今年の「学級目標」

今年の学級目標を教えてください。学級目標とそれにかかわるエピソードや学級目標の意味などを送ってください。

◆子どもが本気になった係活動

これまでつくられた係で、子どもたちが本気になって取り組んでいる係活動を教えてください。係の名前と活動内容を募集します！

下記アドレスまでメールでお知らせください。

☆ sugi-net@c-able.ne.jp

5 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第11号は9月中旬ごろ発行予定です。

次号では、「子どもが主体的に取り組む話し合い活動～議題選定～」 「運動会を学級作りに生かす」について紹介する予定です。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は98名です。少しずつ購読者が増えてきています。もっともっとメルマガ仲間を増やしたいと思います。

お知り合いの方にこのメルマガを紹介してもらえませんか。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====